

平成24年度事業報告

我が国の経済は、円高・デフレ不況が長引き、製造業の競争力は低下し、貿易赤字は拡大し、足下では過度な円高の動きは修正されつつあるものの、国内の成長機会や若年雇用の縮小、復興の遅延など、閉塞感を払拭できない状況が続いています。

景気の現状をみると、それまでの円高の進行や世界景気の減速等を背景に、輸出、生産が落ち込み景気は弱い動きとなり、欧州政府債務危機の影響など海外経済を巡る不確実性は依然として高く、我が国の景気を下押しするリスクとなっています。

こうした認識の下、新政権が掲げる日本経済再生に向けて、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の「三本の矢」で、長引く円高・デフレ不況から脱却し、雇用や所得の拡大が望まれているところです。

このような厳しい情勢において、地域のニーズに応え、高齢者の福祉の増進に努め、国及び地方公共団体の高齢社会対策の重要な役割を担ってきたシルバー人材センターは、高齢法に定められた「高年齢者の就業の機会を確保し、もって高齢者の福祉の増進に資することを目的」とした公益法人であり、当センターでは、急速に高齢化が進行する中で魅力あるシルバー人材センター事業の展開に努め、行政と連携を密にし、積極的に啓発活動を実施した結果、微増ではありますが昨年度に比べ実績が伸びました。

公益社団法人として、より公益性、より透明性が求められていく中、将来を見据え確かな経営と活力ある高齢社会の構築を目指し今後も邁進いたします。

事業実績等の詳細については別頁で記載のとおりで、会員数、受注件数、契約金額等については下記のとおりです。

会 員 数	478 人	(平成23年度実績	489 人)
受 注 件 数	4,665 件	(平成23年度実績	4,628 件)
就 業 実 人 員	458 人	(平成23年度実績	477 人)
就 業 延 人 員	42,719 人	(平成23年度実績	43,151 人)
就 業 率	95.8 %	(平成23年度実績	97.5 %)
契 約 金 額	252,863,196 円	(平成23年度実績	251,083,169 円)

I 普及啓発事業

シルバー事業の意義と仕組み等の周知を市民に対して図るため、センター誌の発行各イベントへの参加、リーフレット等の活用による啓発活動を実施し、また、ケーブルテレビを利用し継続的に入会促進やシルバー事業の仕組み等を放送、会員のロコミによる加入促進に努め「よりんさい」においては年間を通じて、シルバー事業の活動等の情報提供を行い啓発活動に努めました。

II 安全・適正就業推進事業

(1) 安全就業

安全・適正就業委員会による対策会議を7月と2月の2回開催し、委員会による就業現場パトロールの実施及び職群班リーダー会議を開催し、事業部会・安全適正就業委員会を中心に、事故事例や就業現場パトロールの写真をパワーポイントにより紹介し、再発防止や保護具の着用を徹底するよう指導しました。また、県連合会開催の安全就業担当者研修会へ同委員会委員3名、グループリーダー3名が出席しました。

運転業務や就業現場往復途上における交通事故防止を目的とし、自動車学校での運転適性講習会を4月と11月の2回開催し、安全に係る啓発活動としては、「安全就業だより」年3回の発行、ハンドブック「応急処置」、熱中症予防チラシを配布し、安全意識高揚に努め、また、「事故撲滅キャンペーン」と題し、安全就業だよりにより予め全会員へ周知し、期間中（6月～12月）無事故の地区を対象に粗品を進呈する取り組みを実施し、18地区中13地区が無事故を達成しました。

誠に遺憾ながら、本年度は次のような事故が発生しました。

【傷害事故】

発生月	場 所	内 容
5月	本 所	市広報配布業務中、犬に右足脛脛を噛まれ裂傷した。
6月	本 所	ブロック塀上で剪定作業中、段差でバランスを崩し飛び降りた際に、使用していたヘッジトリマーで左腕及び左手薬指を切創し縫合した。
6月	本 所	剪定枝回収作業中、ダンプの荷台から降りた際に、窪地で左足を捻挫したうえ脛脛が肉離れをした。
10月	本 所	就業先の公園内を軽トラックで走行中、照明灯の柱に追突しフロントガラスで頭部を強打した。

【物損事故】

発生日	場 所	内 容
5月	本 所	除草作業中小石を飛散させ、当センター軽ダンプの運転席側のガラスを破損させた。
6月	本 所	除草作業中小石を飛散させ、就業中の会員所有車両の右後部窓ガラスを破損させた。
6月	本 所	除草作業中刈払機が植木に接触し、切倒させた。
7月	本 所	ガソリンスタンド内で、当センターダンプをバックさせていた際に、ガソリンスタンド所有のトラックに接触し、バックミラーを破損させた。
12月	本 所	公園で伐採作業中、誤って外灯の電球を破損させた。
2月	南部支所	給食配送業務中車両をバックさせた際に、給食室のシャッターへ接触し破損させた。

(2) 適正就業

適正就業については、ローテーション就業を推進するため、当該会員を対象とした会議や、継続業務の発注者を訪問し、シルバー事業の仕組みを説明し適正就業に向けて取り組みました。また、請負契約事務における見積書・請書の記入方法や運用について周知を図りました。

Ⅲ 就業開拓事業

当該年度の事業実績は、昨今のデフレ要因とする経済不況等のため大幅な好転は望めませんでした。が、チラシ等による広報や市行政に対し就業の開拓に努めました結果受託件数 4,665 件と昨年度に比べて 37 件の微増となり、契約金額では 252,863,196 円対前年度比 100.7%金額にして 1,780,027 円の増収となりました。

契約金額を公民区別構成で比較しますと、【公共】 68,668,327 円（全体の 27.2%）対前年度比較（2.9%増）【民間企業】 101,035,117 円（全体の 39.9%）対前年度比較（4.2%減）【一般家庭】 79,326,780 円（全体の 31.4%）対前年度比較（7.4%増）【独自事業】 3,832,972 円（全体の 1.5%）対前年度比較（33.1%減）となり、民間企業及び独自事業では減収となりましたが、公共及び一般家庭は増収となっております。

さらに、職群別に大別してみますと【一般作業群】 120,889,213 円（47.8%）【技能群】 50,954,327 円（20.2%）【サービス群】 32,324,220 円（12.7%）【折衝外交群】 21,539,787 円（8.5%）【管理群】 16,284,375 円（6.4%）【技術群】 10,021,064 円（4.0%）【その他】 738,030 円（0.3%）【事務群】 112,180 円（0.1%）となっております。

IV 企画提案方式による事業

【環境保全事業】

東日本大震災に端を発した夏期の節電対策・省エネルギー運動として、ゴーヤやフウセンカズラを利用した「緑のカーテン」を市立三次中央病院に設置・栽培しました。

また、当センター敷地内にあるシルバー農園では、年間を通じてサツマイモやタマネギ等を栽培し、サツマイモの収穫時には地域の保育園児にも体験してもらうことで環境保全に対する意識の高揚を図りました。

【生涯学習事業】

昨年度に引き続き、市内保育所を参加対象とした「灰塚ダム知和ウェットランド」での野鳥観察学習を実施し、参加した児童及び職員の方から高評価をいただきました。

市内にある農場の協力のもと、当センター管理農園で栽培・収穫した大豆を使った味噌づくり体験教室を開催し、世代間の交流を深め、地域の活性化を図るため事業を推進しました。

【シルバーアシスト事業】

増加傾向にある高齢者単身世帯や、身体に障害をお持ちの方、妊産婦の方を対象にゴミ出し、電球・電池の交換、日用品の買出しなどの1時間以内程度の軽易な業務を一律500円で請けるサービスを開始し、従来の福祉家事援助サービス事業に付加した幅広いサービスで市民の生活ニーズに応えるよう努めました。

V 相談、情報提供

入会説明会を毎月1回開催し、センターの基本理念や事業内容等の情報提供を行いました。また、会員相互の連帯感の高揚、会員による自主的な運営参加を図るために、職群班リーダー会議、各地区において地域班会議を実施しました。

今年度の会員数は、入会者38人に対して退会者が49人と前年に比べ11人の減員であり、年度末会員数は男性348人、女性130人の合計478人でした。

【入退会状況】

入会者38人のうち、男性は27人、女性は11人平均年齢67歳であり、入会動機は、『健康的』14人(36.9%)がトップで、続いて『経済的』13人(34.2%)『その他』6人(15.7%)『社会的』5人(13.2%)の順となっています。

退会者は、男性34人、女性15人平均年齢71歳で、退会の動機は大半が病気を理由に退会されています。

VI 社会参加活動の推進

会員58名の参加による鵜飼乗船場周辺環境整備のボランティア作業、また、普及啓発促進月間中の「シルバーの日」では、会員252名の参加により、保育所や小学校、コミュニティセンター、公園など公共施設の除草や剪定、清掃等の効率的なボランティア活動を実施し、老人福祉施設等への慰問は、「すずらんの会」の皆さんが7箇所において舞踊や大道芸を披露されました。

VII 無料職業紹介の実施

企業等からの求人に対し、雇用による就業機会の提供が図れるよう無料職業紹介責任者を設置していますが、今年度企業等からの求人はありませんでした。

VIII 財源確保及び組織体制改革

センターは公共性・公益性のある公益社団法人で、行政の一翼を担う団体であることから、行政機関との連携の強化を図り、受注確保並びに補助金の必要性を提唱しまた、センター事業の安定的な事業運営の継続性を維持していくため、組織体制の改革、未収債権の早期回収や経常費用の節減に努めました。

IX 業務執行

公益法人として、理事会並びに各部会・委員会等を開催するとともに、毎月職員連絡会議を実施し、関係法令を遵守した組織及び円滑な事業運営を推進するため、情報交換と課題の解決・調整に努めました。